

# [ 熊本 S.J.C.D.例会 抄 録 ]

演 題 日常臨床における診断用ワックスアップの活用法

演者 佐藤 俊一郎 (DR)

日 付 2012年9月25日 (火)

Key word 診断用ワックスアップ  
コミュニケーションツール  
治療目標と最終ゴール

## 抄 録

SJCD というスタディーグループの、治療計画を立てる上での重要なステップとして、診断用ワックスアップは欠かせないものとなっている。特に咬合再構成するような全顎治療においては、そのステップなくして先には進めない。

しかし、日常の臨床において、比較的小さな症例などでは、診断用ワックスアップを行わずに補綴物の作製を進めることも少なくない。ところが、そのステップを省略したが故に、患者さんとのトラブルを招く結果になることもあるように思われる。なぜなら、患者さんが考える「審美」と、我々術者が考える「審美」が必ずしも一致するとは限らないからである。

患者さんと術者のそのギャップを埋めるものとして、診断用ワックスアップをいかに活用できるかが、良い結果を得るための治療の鍵になると思われる。治療に入る前に、患者さんの希望を十分に把握した上で、医学的にどこまで許容できるのか診断用ワックスアップにて精査し、納得するまで話し合う必要がある。

私は、このステップをきちんと踏むことで、患者さんとの不必要なトラブルもなくなるはずであると考えている。

今回、前歯の補綴形態に苦慮した症例に、診断用ワックスアップを患者さんとのコミュニケーションツールとして用いることにより、最終的には患者さんに満足いただいた3つの症例を提示させていただき、皆様のご指導を仰ぎたいと思います。

以 上